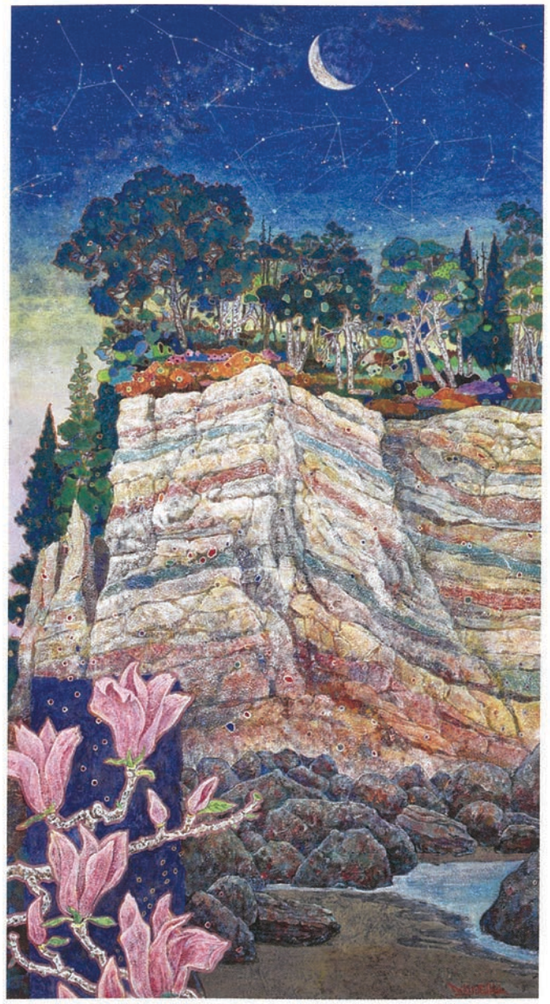

「白亜紀の層」122.2×65cm

「樹林」P6号

「樹林」P6号

「青い花」F12号

「南苑」軸47×26cm

表紙:「Distance」φ72cm

「Fの夜」P6号

「生きた化石とモクレン」F4号

私は生きものと、それを育む地球の姿に傾倒しています。様々な風土に触れるために、ヨーロッパ、北アフリカ、東南アジアなどを旅しました。そこで見たことは、地球環境の壮大でエネルギッシュな歴史についてでした。日本よりもはるかに環境の維持に意識が高い北欧では、手付かずの自然や原野が剥き出しになっていました。紛れもなくヒトはこうした環境の中で共生していました。また生きものたちも多様な環境の下で生息していました。

旅で私が得たこととは、「生きた自然」を把握し、歴史の中にあるものを見つめ、そこから果てしない表現の可能性を求めるというものです。

毎年、白亜紀の発掘調査に参加させてもらっています。そこで「生きた証」である化石を掘り出すと、ひとつの新しい生命の登場ととらえて歓喜します。地球史という科学認識を専門家の方から学びつつも、その認識を自由な歴史意識へと膨らませて、内にある自然のポエジーを探っています。過去は遥かで見えなくも、私には「現在」と同じ位置にあります。

末永敏明

「白亜紀のとき」F4号

「水のパラダイス Blue tail」F4号

「魚のファンタジー ウツボ」F3号